

## 鹿児島大学郡元キャンパスのアリ

福元しげ子

〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

鹿児島大学郡元キャンパスは市街地に位置するが、植物園（保存林）や実験実習地（農場）などをはじめ植込み、生垣、草地、建物、舗装道路などさまざまな環境をもつ。私は、郡元キャンパスに出現するアリ類のさまざまな環境における種多様性を比較し、多様な環境のモザイク的な存在がキャンパス全体の種多様性にどのように貢献しているかを研究テーマの一つとしている。これまでになされた鹿児島県本土におけるアリに関する研究の結果と比較し、鹿児島大学郡元キャンパスのアリ相の特徴を明らかにするとともに、市街地における隔離された森林（植物園）がどの程度森林性のアリ相を保持しているかを評価したい。

2008年、構内の7つの環境タイプに出現するアリの予備的なサンプリング（ベート法、単位時間法、および任意採集）を行った。環境タイプごとに3地点を選び、それぞれにトランセクトを設置した。ベートには粉チーズを用い、1トランセクト当たり15ベート、合計900ベートを設置した。単位時間法においては1トランセクト当たり10分間×5、合計16時間40分をかけて見つけ取りによってアリを採集した。ベート法によるサンプル解析途中の結果に基づいて、これまでに判明したことを簡単に紹介する。

今回の調査では、郡元キャンパス全体では16属25種のアリが確認され、植物園だけでは11属13種であった。山根ほか(1994)が行った調査（シロップベートを使用）と比較すると、「城山自然林」（16種）と郡元キャンパス（25種）では共通する種が14種で、前者からみれば56%が、後者から

みれば88%が共通種であった。「甲突川緑地」（13種）および「市街地」（11種）と比較すると、郡元キャンパスとの共通種はそれぞれ9種、11種であり、市街地で得られたアリの全種が郡元キャンパスでも見つかった。

このことから、郡元キャンパスは全体としては市街地のアリ相をもっているが、一方で森林性のアリ相の一部も保持しているといえる。今後はより精密なサンプリングを実施し、様々なタイプの環境がアリの種多様性に貢献しているかどうかの結果を出せるよう努力したい。市街地にありながらまとまった面積を有する植物園、隣接する玉利池や実験実習地などの周辺環境は、教育・研究、環境教育や自然体験学習の場であるばかりでなく、市民に憩いの場・散策の場を提供している。次代へ引き継ぐべき貴重な資源である。ただ、植物園ではアシジロヒラフシアリという外来性のアリが高い頻度で見られたことに注目したい。このアリは、人間活動に伴って分布域を拡げる放浪種の一種である。この種の出現によって植物園のアリ相が変化する可能性があり、今後のモニタリングが必要である。

### 引用文献

山根正氣・津田 清・原田 豊. 1994. かがしま自然ガイド 鹿児島県本土のアリ. 西日本新聞社, 福岡. 180 pp.



ウロコアリ *Strumigenys lewisi*. 体長2.2 mm (2008年5月4日, 鹿児島大学植物園, 撮影協力: 内村 公大).

Fukumoto, S. 2009. Ants at the Korimoto Campus of Kagoshima University. *Nature of Kagoshima* 35: 67.

✉ The Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: shigeko@kaum.kagoshima-u.ac.jp)